



清水 美枝さん

埼玉県長瀬町
小さなホテルセラヴィ

クな渓谷で川の旅」などと、ライン下りに加え、カヌーにラフティング、SUP（スタンディング・アップ・パドル）等々。荒川の渓流も時代とともに少しづつ姿を変えています。

「勝地」の語源は「勝地定主無し」という言葉のようです。「素晴らしい景色には決まった持ち主などいらないのだから好きなんだけ楽しめばよい」とい

も」縁があります。なく、皆の幸せのためには環境や社会のことを考えることが大切だと、いう現在のCSR（企業の社会的責任）を渋沢栄一は100年以上も前から主張していたのです。

偉人が讃えた「天下の勝地」

鳥羽ビューホテル花
真珠の泊間優子さんよ
りバトンをもらつた埼

玉眞の「小さなホテルセラヴィ」の清水美枝です。

我が町長瀬（ながと）は大正初期より渓

流下りが有名な風光明媚な観光地です。かつては「天下の勝地」とうたわれた長瀬も、今では「フォトジェニック」

・をもつて JKK
会員旅館・女性連携会
リレー「コラム
Vol.138

最近ではあまり耳にしないこの「天下の勝地」ですが、長瀬駅前の大きな石碑には「長瀬は天下の勝地」と渋沢栄一が書いた書が彫られております。実は近代日本経済の父ともいわれる渋沢栄一の生家は隣町で、長瀬町と

う意味だそうです。まさに利益を独占するのではなく、皆で共有するという理念を説いた渋沢栄一らしい言葉です。稼いだお金は、自分のために貯め込まず、人のために惜しみなく使う。経済的な利益を得るだけでは

次は白浜荘の前川裕美さんにバトンをお渡しいたします。